

地域に飛び出す市民国際プラザ！

『市民国際プラザ』では、国際協力や多文化共生に関する自治体、地域国際化協会、NGO/NPO等の相談に対応しています。更に、各地の先進的な活動を実際に取り上げ、本ダイジェストでご紹介しています。

○社会福祉法人 さぼうと21

2020年6月29日 場所：ZOOMオンライン

◆拠点型・オンライン型・アウトリーチ型の支援を模索する「さぼうと21」 ～「外国ルーツ青少年未来創造事業」への挑戦を通じて～

ここでは、矢崎理恵さんから伺った「外国ルーツ青少年未来創造事業」（（公財）日本国際交流センター）の採択プロジェクト「一人も取り残さない」ための包括的学習支援展開事業」を中心にご紹介します。

矢崎さんたちは、同プロジェクトにおいて、従来の拠点型の支援にアウトリーチ型の支援—そして今回のコロナ禍で得られたオンライン型の支援—を組み合わせることで、タイトル通り「一人も取り残さない」学習支援活動のシステムの構築を目指します。

拠点型の学習支援事業は、さぼうと21の大切な活動内容の1つ。1時間以上もかけて来訪する、子連れの難民のご家庭の方もいらっしゃる頃から、高い評価を得たうえでの盛況ぶりが伺われます。

しかし矢崎さんは「その事実が問題」と述べます。「遠方から電車でいらっしゃる方々、特に子供の負担は大きい」。それでも来訪されるのは、それぞれの地域や地区に気楽に通い続けられる学習機関が少ないため。矢崎さんは、そこには難民ならではの特別な事情もあると言います。「難民の方が住む近隣にも日本語教室はある。でも自己紹介などで「何故日本に？」と問われるだけでも、答えに困ってしまう方も多い。さぼうと21の事務所に来訪するのは信頼できる場所が欲しいから。地域にそのような場所があれば、もちろん喜んでお勧めしたい」。

矢崎さんは「こちらから出向くアウトリーチ型の支援」にも大きな可能性があると言います。地域に暮らす大学生などの力を借りて、また、その地域で休憩中の飲食店などのテーブルを一時的に借りて、少人数での学習機会を提供することで、人材と場所の問題を解決する計画です。矢崎さんは「その地域に元々あるリソースを少しお借りするだけ。多文化共生に興味がある人々はたくさんいる。少しでも関わりをもって貰うことが大切」と言います。矢崎さんたちが期待するのは、こうした市民力の積み重ね。「1つ1つの積み重ねによって、もしかしたら物事が動くかもしれない。ボトムアップでの積み重ねが大切」と矢崎さんは考えます。



↑新型コロナ対策の注意喚起も、さぼうと21の学習支援教室に通う、学習者の方々による手作りです。



他にも矢崎さんから、時間の許す限り、お話を伺いました（時には教育に対する熱い思いも）。全文については、市民国際プラザのウェブサイト公開されたインタビュー記事をご確認下さい。

[さぼうと21 ウェブサイト]

<https://support21.or.jp/>

← オンラインで多地点を結ぶ学習支援システムの一例です。全体拠点の目黒事務所と、品川区、川口市、千葉市、市川市で行われる各学習支援教室を繋ぐことで、相互の連携を図っています。



～ 市民国際プラザを広く皆様に知っていただくために～

市民国際プラザのFacebookに「いいね！」をお願いします！



地域に飛び出す市民国際プラザ！

『市民国際プラザ』では、国際協力や多文化共生に関する自治体、地域国際化協会、NGO/NPO等の相談に対応しています。更に、各地の**先進的な活動**を実際に取り扱い、本ダイジェストでご紹介しています。

○ESD・市民協働推進センター（（特活）岡山NPOセンター）

2020年6月17日 場所：ZOOMオンライン

◆行政と民間の「協働」を目指して—ESD・市民協働推進センターの取り組み—

ここでは、高平亮ESD・市民協働推進センター長（NPO法人岡山NPOセンター所属）から伺った、同センターの「協働」をキーワードとする諸活動を中心にご紹介します。

2016年4月から施行された「岡山市協働のまちづくり条例」。そのなかに「協働」を実現するためのコーディネート機関の設置を記す一文（第8条）があります。ESD・市民協働推進センターは、この条例改正によって正式に機能・役割が規定されました。センターの職員の皆さんは、岡山市で活躍する「多様な主体」をつなぎ、「協働」を推進するコーディネート機関の一員として、職務に励んでいます。

重要な活動の1つは地域の課題解決に向けた仕組み作り。「岡山市民の方々に協働の意義を認知頂くためにも、課題解決と直接結びつくモデル事業の推進は非常に重要」だと、高平さんは語ります。このモデル形成のために、高平さんたちは、参加者同士で地域の問題を再確認し、対処する方法について考え、事業の立案を目指します。そして、そこには行政機関との連携も含まれます。具体的なアクションを実現させるためには、行政からの各種の支援は欠かせません。こうした活動を促進させ、行政、民間企業、個人、NPO法人などの様々な主体同士の協働を実現させることが、高平さんたちの役割です。次の高平さんのご発言に、その全てが要約されています。

「コーディネーター機関としての私たちの役割はまさに裏方そのもの。協働にご参加いただく皆様が、スムーズに計画を立案していくために、脚本、配役、資金・資源調達、ネットワーク形成などに努力する。地域の課題解決に向けて、少しでも道を切り開いて行くことができれば、と考えている」

他にも高平さんから、時間の許す限り、様々なお話を伺いました。全文については、市民国際プラザのウェブサイトに公開されたインタビュー記事をご確認下さい。

【ESD・市民協働推進センター ウェブサイト】 <http://www.okayama-tbox.jp/kyoudou/pages/7673>



↑「協働のまちづくり条例」改正記念行事の様子。ご盛況ぶりから、同条例への市民の方々の高い関心ぶりが伺えます。



↑市民と行政が対等に協議するワークショップ。こうした機会を通じて、市政の在り方や市民の関わり方などが、議論されます。

◆市民国際プラザでは、自治体連携や多文化共生の推進などに関し、ZOOMによるオンライン相談を試験的に開始します。ご希望の場合は、下記メールにご連絡下さい。

□メールアドレス：international_cooperation@plaza-clair.jp

（※なお、メールでのお問合せ・ご相談は従来通り受けつけております）



～ 市民国際プラザを広く皆様に知っていただくために～

市民国際プラザのFacebookに「いいね！」をお願いします！ ♪

